



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



平成20年度中部森林管理局決算概要の公表 発生ベースで収入超過

(P2に関連記事)

主 な 項 目	○ 平成20年度中部森林管理局決算の概要 P2
	○ 地域との連携 P3~4
	○ 風景紀行 P6

平成二十年
度
中部森林管理局決算概要

去る九月十五日、平成二十年度中部森林管理局の決算概要を公表しました。

平成二十年度の決算は、森林の公益的機能の維持増進、地球温暖化防止対策に積極的に取り組むとともに、財政の健全化に努めた結果、収支では二十四億五千万円の収入超過となりました。

また、損益計算上では、二十七億四千万円の損失となりました。

◆発生収支

収入のうち、事業収入の大宗を占める林産物等収入は、住宅着工戸数の大幅な減少に加え、長引く木材価格の低迷等があったものの、間伐材の積極的な売り払いにより、前年度より九千万円増の三十四億三千万円となりました。

林野等売払代は、大型物件が少なくなったものの、余剰敷地の積極的な売り払いにより、前年度より二億七千万円増の六億七千万円となり、自己収入全体では前年度より三億六千万円増の四十七億九千万円となりました。

一方、一般会計からの受入金は、治山事業の事業量が平成十九年度に比べて減少したこと等から、前年度より二十三億四千万円減の二百三十八億九千万円となりました。

また、新規借入金は五年連続してゼロとなり、借換借入金は、前年度より五億二千万円減の百十億六千万円となりました。

支出については、職員数の適正化等に努めたことにより、給与経費等は前年度より一億五千万円減の六十九億八千万円となりました。

森林環境保全整備事業費については、地球温暖化防止等に資する森林整備を推進したことにより、前年度より八億二千万円増の五十二億九千万円となりました。

治山事業費については、平成十九年度に比べ、事業量が減少したことから、前年度より三十六億九千万円減の百五億三千万円となりました。

借入金に係る償還金・支払利子は、前年度より七億円減の百二十二億九千万円となりました。

以上の結果、四百四億六千万円の収入に対し、支出は三百八十億一千万円で、二十四億五千万円の収入超過となりました。

◆損益計算

減価償却費の減少等により、損益計算上の損失は前年度より六億二千万円減少して二十七億四千万円となりました。

損 益 計 算

(単位:百万円)

費 用(24,472)	収 益(21,730)
経 営 費 5,260	売 上 高 3,490
治山事業費 13,154	林野等売払収入 670
一般管理費及び販売費 1,535	財産貸付料等収入 595
減価償却費 3,084	一般会計より受入 16,165
資産除却損 249	森林保全等財源受入 (2,718)
支 払 利 子 925	治山事業費財源受入 (12,446)
雑 損 265	利子財源受入 (1,001)
	地方公共団体工事費負担金収入 708
	雑 収 入 101
	雑 益 1
	本年度損失 2,742

発 生 収 支

(単位:百万円)

収 入(40,465)	支 出(38,015)
林産物等収入 3,430	給 与 経 費 5,548
林野等売払代 670	基幹作業職員給与 1,434
財産貸付料等収入 595	業 務 費 1,819
雑 収 入 102	森林環境保全整備事業費 5,289
一般会計より受入 23,898	林道施設等災害復旧事業費 68
事業施設費財源 (7,558)	そ の 他 1,034
公益林等保全管理費財源 (2,564)	治山事業費 10,537
利子財源 (1,291)	償還金及び支払利子 12,286
治山事業費財源 (12,485)	収 支 差 2,450
地方公共団体工事費負担金収入 710	
借 入 金 (借換借入金) 11,060	

金額は、それぞれの科目で四捨五入しているので合計金額とは必ずしも一致しない。

防災週間行事

局総合防災訓練を実施

【企画調整室】 防災週間（八月三十日から九月五日）にあわせて、九月一日の「防災の日」に局の総合防災訓練を実施しました。総合防災訓練では、警戒体制時及び地震発生時を想定し、それぞれ警戒本部の設置と災害対策本部の設置を行い運営するとともに、各署等との伝達訓練を行いました。

局庁舎が被災した前提とし災害対策本部を屋外に設置し、災害対策本部長（局長）の指示により各災害対策班の役割を確認するとともに、ヘリコプターの出勤依頼など具体的な対応をシミュレーションしました。

また、情報伝達訓練では、東海地震に係る地震防災対策強化地域になっている南信森林管理署と愛知森林管理事務所において電話線などが使えないとの想定で衛星電話を使い災害情報の伝達を行いました。

最近では異常気象による局地的豪雨が各地に相次いで発生しており、災害はいつどこで起こるか判りません。普段からの備えが大切であることを改めて確認できた訓練となりました。

最後に、地震等の発生地域で電話が規制され通話ができない状況では、災害用伝言板などが有効です。毎月一日に各社の携帯電話で体験ができるようになって

いますので、ご家族を含め是非一度試してみることをお勧めします。



情報伝達訓練を実施している参加者

地域との連携

みんなで森づくり

「伝統工芸の森」継承に汗を流す

【南木曽支署】 八月二十五日、「南木曽伝統工芸の森」（南蘭国有林六〇九林班）において、「南木曽伝統工芸の森育成協議会」の構成員である南木曽ろくろ工芸協同組合、蘭桧笠生産協同組合の他南木曽町、当支署の計十二名が森林整備作業（下刈）に汗を流しました。

「南木曽伝統工芸の森」は、南木曽町の工芸品であるろくろ細工や桧笠、サワラ桶の関係者からなる南木曽伝統工芸の森育成協議会と当支署の間において、森林整備を通じ、木の文化の継承を目的と

し、平成十八年に協定を締結したものです。

約三畝の国有林にトチノキ等四百本が植樹されており、今年で四回目の森林整備となります。

当初は、他の構成員やボランティアの方の協力も得て行うこととしていましたが、予定した日が悪天候で順延を余儀なくされ今回の実施となりました。

当日は、好天に恵まれ、背丈並みに伸びた夏草を刈り、参加者からは「材料になるには二百〜三百年かかるが、私たちの後に続く人のために木を育てていきたい」、「最近ほろろ細工の材料確保が難しくなっている。こうした活動が続く、森の木々で伝統工芸品がつくれるようになるばいい」等の声が聞かれました。

また、地元新聞社も取材に訪れ、記事として掲載されました。

今回、下刈をした林分がろくろ細工



参加者が南木曽伝統工芸の森看板前で

などの伝統工芸品の材料として利用できるようにするには長い年月がかかりますが、このような活動を協働し継続するなかで、より多くの人々に「木の文化を支える森づくり」について情報発信していくこととしています。

大学生が森林ガイドに挑戦

【南信署】 九月六日に、伊那市水無山（標高一、二三七メートル）において、信州大学の学生十名と地元公民館が共同企画したハイキングを、地元住民一八名の参加者で開催されました。

参加者は、小学一年生から年配の方などの幅広い年齢層で、山頂までの急な上り坂を、大学生からアブラチャンやミズヒキなどの植物の解説をしてもらいながらハイキングを行い、山頂で記念写真を撮影して、全員笑顔で下山しました。

この企画は、地域・大学生・森林管理署の三者の交流を深めることを目的とし、その手法として、昨年度から大学生の企画・運営がスムーズになるように伊那森林事務所森林官が全面的なバックアップを行っており、水無山で実践的な森林環境教育の場を提供しています。

当日の朝、大学生は緊張した面持ちでしたが、下山した頃には自分たちの企画に自信が持てたのか、非常にさわやかな表情に変わっていました。

参加者からは「是非続けてほしい」と

の好評をいただき、大学生による森林がイドの、これからの発展が期待されています。

今後ともこのような企画を通じて、地域に必要とされる森林管理署としてあり続けたいと考えています。



「この葉っぱがクリ」大学生の話に興味津々

森林技術センターが 新規林業参入者に技術指導

「森林技術センター」九月八・九日の両日、森林技術センター会議室及び下呂市馬瀬惣島の山林において「ひだ林業・建設業森づくり協議会」の要請を受け、森林技術センター職員が技術指導による「伐木造材作業の特別教育」が実施されました。

同協議会は、国の地方の元気再生事業の採択を受け、飛騨地域の林業者と建設業者の協働による森林づくりを通して、地域の環境保全と産業振興の推進を図る

ことを目的として平成二十年五月に発足され、同協議会から森林技術センターに對して新規林業参入者（建設業者）を対象としたチェンソーによる伐木造材作業の特別教育に係る技術指導要請があったものです。

研修会には、同協議会会員二十名が参加し、初日は、座学（伐木作業に関する知識、チェンソーに関する知識、振動障害及びその予防に関する知識、チェンソー分解・組立・目立て、関係法令）、二日目は、実技指導（チェンソーの点検及び整備、チェンソーの操作、伐木の方法・かかり木処理）を行い、現地においてチェンソーの操作や目立て、かかり木処理方法等について理解を深め、参加した建設業者は、林業参入に強い意欲を燃やしていました。



技術指導の様子

研修修了者には、中部森林管理局長から「伐木造材特別教育修了証」が交付されました。

森林技術センターでは、こうした森林技術の指導普及を通して地域林業の振興に寄与していくことをしています。

なお、この模様は、「ひだ林業・建設業森づくり協議会」ホームページ <http://nacapsytenet/hidagenki/> にも紹介されています。

各地からのたより

治山・林道安全

パトロールの実施

「東濃署」八月二十六日、治山・林道工事請負事業体の安全確保を図るため、当署と請負事業体が合同で安全パトロールを実施しました。署長はじめ治山・林道の担当者、請負事業体からは安全担当者が参加し、四班に分かれて十箇所の工事施工箇所の安全点検を行いました。

各現場では、現場代理人から工事概要の説明を受けたあと、それぞれの現場に即した安全管理について熱心に質問や意見等が出されました。

パトロール終了後、中津川市内において全体反省会を開催し、パトロールの総括を行いました。今年度は、請負事業体の災害が多発していることもあり、参加



安全パトロールの様子

長野・岐阜グリーンサポート

スタッフ御嶽山森林保全

合同パトロールを実施

者全員が指摘事項を真摯に受け止め、更なる安全対策に役立てていくこととしています。

「木曽署・岐阜署」木曽署・岐阜署は八月二十七日・二十八日にかけて両署が管理する御嶽山で、グリーンサポートスタッフ（森林保護員）、木曽署・岐阜署関係者七名で森林保全合同パトロールを実施しました。

飛騨頂上周辺は、高山植物の女王と言われる「コマクサ」が群生しており、群生地はグリーンロープで進入禁止の対策を行っています。写真撮影などで踏み入れる人もいます。その対策のため、二十七日は、肌寒い曇りの中、山頂に立入禁止看板を設置しました。

二十八日は、晴天の中、登山者のマナー向上を求めるため、パンフレットの配布や高山植物等保護への協力について

の呼びかけを行いました。
今後、両署の連携を密にし、御嶽山における高山植物等の保護、保全活動を行っていくこととしています。

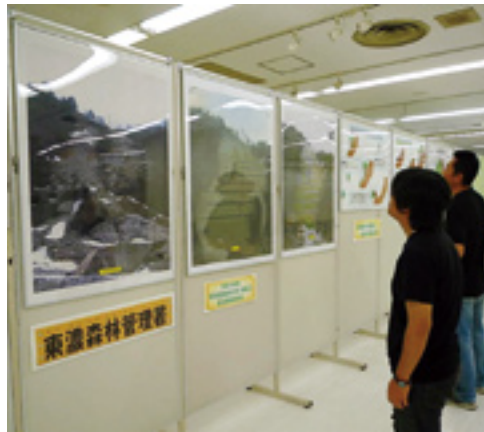


立入禁止看板を設置する関係者

「治山・治水の日」パネル展示

〔東濃署〕昭和七年八月二十六日、中津川市四ツ目川上流において大規模な土石流が発生し、死傷者二十六名、被害家屋一、五〇〇戸という大惨事（四ツ目川災害）を引き起こしました。中津川市は毎年この日を「治山・治水の日」とし、祈念祭と土砂災害防止に向けた関連イベントを実施しています。今年、JR中津川駅前「にぎわいプラザ」において講演会とパネル展示が行われ、多くの市民が訪れました。当署も治山事業の果たす役割を広くPRするため、写真やイラストを使って分かりやすく解説したパネルを展示しました。また、会場には国土交通省による砂防事業のパネルや、中津川市内の小学生を対象として六月に実施した

「あおぞら教室」（当署と国交省による治山・砂防教室）を題材にした小学生手作りの新聞も展示され、訪れた市民は興味深そうに目を通していました。



展示されたパネル

シリーズ

現場最前線

チームの「和」を大切に

東濃森林管理署 恵那森林事務所

恵那森林事務所は、「中津川治山事業所」との合同事務所で中津川市に所在し、中央自動車道中津川インター近くにありま。

国有林は、中央アルプスの最南端である恵那山（日本百名山）の南西側を中心に面積約四、九〇〇鈔、官行造林約二七〇鈔を管理し、中津川市及び恵那市の一部を管轄しています。

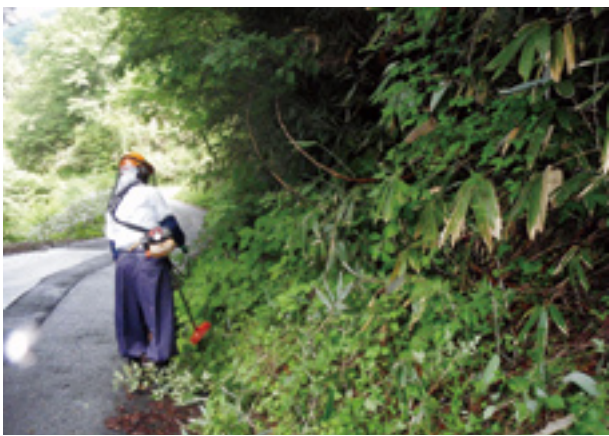
恵那班は、恵那山の麓に住む三名を中

心とした四名体制で、今年度も年間を通して、除伐Ⅱ類・枝打・保育間伐等の森林整備作業を実施しています。この他、立木調査・境界巡検・林道整備と維持・分収育林・歩道修理等と、作業内容も多岐にわたっています。

班長を中心にチームワークもよく、ベテランの「技」を現場作業に十分発揮しています。

どの作業地も急峻で笹覆地と足場が悪く、災害の危険因子が多い厳しい条件のなか、安全作業に心掛けています。特に防蜂網とフェイスガードはセットで一年中取り付けて作業しています。

今後とも、チームの「和」を大切に、無災害を継続し、健康で明るい職場づくりに取り組んでいきたいと考えています。



「林道安全の日」恵那山林道草刈り

行事・会議等の予定

◎国有林野事業労働衛生週間

10月1～7日

◎名古屋シティフォレスト事業

10月3日 飛騨署管内

10月17日 愛知所管内

10月31日 愛知所管内

◎森林ふれあい講座

10月3日 愛知所管内

10月24日 東濃署管内

◎親子森林探検隊

10月3日 東信署管内

◎局長等会議

10月5～6日 林野庁

◎林政記者クラブ国有林視察

10月7～8日 中信・南信署管内

◎国産材循環利用推進功労者感謝状贈呈式

10月14日 長野県上松町

◎低コスト高効率作業システム現地検討会

10月15～16日 木曽署管内

◎森林ボランティア・NPO連携推進会議

10月23～24日 中信署管内

◎事業担当部長会議

10月26～27日 林野庁

◎指導普及連絡会

10月28～29日 中信署管内

継鹿尾山 (犬山国有林)

「愛知所」愛知県の最北部、全県地図を見ると、少し出っ張りのある部分。木曾川を隔て尾張國と美濃國の境に位置する継鹿尾山。山頂を含め一帯は、犬山国有林で飛騨木曾川国定公園に指定されている景勝地です。

標高二七三メートルの継鹿尾山は、東海の百山に選ばれ低山ながらも様々な山々からなり、その登山道は東海自然歩道として整備され、休日ともなれば多くのハイカーが訪れます。また、西側の麓には約千三百五十年前に建てられた「八葉連台寺 寂光院」が建っています。この寂光院は別名「もみじ寺」として親しまれ、紅葉の時期にはたくさんのお客で賑わっています。

継鹿尾山へは、登山口からおよそ三〇分で登ることができ、山登りというには物足りないものの、山頂展望台から見下ろす眺めは絶景で、県境を悠々と流れる



国宝「犬山城」

大河（木曾川）は、風景がヨーロッパ中部を流れるライン川に似ていることから「日本ライン」と命名されています。

また、織田信長の叔父である信康が築いた国宝「犬山城」をはじめ、世界にも数少ないサル専門の動物園と遊園地が一体となった「日本モンキーパーク」などの観光施設とともに犬山市街や各務原市街、遠くに岐阜の街や名古屋駅ビル群、霞が無ければ養老や鈴鹿山脈まで見ることがができます。

犬山国有林では、このような場の特性を活かすため、地球温暖化防止対策にかかる森林整備の取組として、眺望伐開を考慮した施業方法を行っており、訪れる人々をはじめ地域住民からも高い評価を得ています。



継鹿尾山山頂からの眺望
中央を流れる日本ラインから右が岐阜県、左が愛知県

「ライン下り」や「犬山鵜飼」などの観光の折に一足のばしてみてはいかがでしょうか。

所在地

愛知県犬山市継鹿尾山（犬山国有林）

◆アクセス（寂光院の登山口まで）

○車でお越しの場合

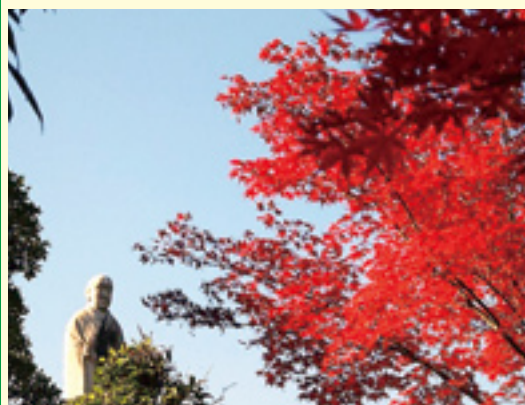
・東名・名神・中央道経由で
小牧東ICから尾張パークウェイ犬山IC出口右へ

・国道四一号线経由で

五郎丸から県道二七号線を犬山方面へ。犬山遊園西にて右折

○公共交通機関をご利用の場合

・名鉄犬山線犬山遊園駅からタクシー五分又は徒歩三〇分。



寂光院周辺の紅葉 1



寂光院周辺の紅葉 2